

ライフサイエンス I

科目ナンバリング SCE-103
【Ⅶ】 選択 2単位

星井 道代

1. 授業の概要(ねらい)

ライフサイエンス[life science]は、生物体と生命現象を取り扱い、生物学・生化学・医学・心理学・生態学のほか社会科学なども含めて総合的に研究する学問である。最近では、本来の意味のほかに、エネルギー資源や食糧問題、宇宙開発、人口問題、環境問題などが社会的に大きな問題となり、もはやせまい意味の生物の学問というよりももっと広い立場が必要となっている。急速に発展を遂げつつある分野であるために、明確に限定しにくい。生命倫理・医療・健康を中心に、適宜効果的に映像等使用し学習していく。課題となっている問題について現状を正しく理解し、自己の考え方を確立することを目的としている。ライフサイエンス I では、疾病の治療、予防、人口の人為的制御、人間環境の制御など、人間の生存をより快適にすることを中心に取り組み、より理解を深めていく。通年の受講(ライフサイエンス II も受講)が望ましい。

2. 授業の到達目標

生命科学に関する現状を理解し、基礎的知識を身につけ、生命倫理的な課題について考える力を養う。

3. 成績評価の方法および基準

授業内におけるグループディスカッション及びレポート提出(50%)、生命倫理に関する課題レポート提出(25%)、生命倫理に関する15分のプレゼンテーション(25%)により総合的に評価する。毎回授業時には、配布資料・購入テキスト、ノートなどを持参すること。まずは出席を確保し、授業ノートを作成し、期日までに課題・レポート等の提出を行うこと。授業態度やレポート提出及び出席率が悪い場合には、期末試験の受験資格を与えない。試験時の教科書・ノート・参考書の持ち込みは禁止する。期末試験で一定以上の水準以上の得点が得られなかった履修者については、単位を取得することができない。

4. 教科書・参考文献

参考文献

欧米の生命倫理論 『バイオエシックスの基礎』 東海大学出版

5. 準備学習の内容

毎回授業の前までに、前回の授業の復習と指定した教科書の授業範囲を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。前回の授業の復習については、ノートにまとめておくことが望ましい。出された課題は、次回までに完成させておくことが望ましい。

6. その他履修上の注意事項

毎回授業時には、配布資料・購入テキスト、ノートなどを持参すること。ほぼ毎回授業時に、レポート(感想文)提出やグループ討論を行うため、極力遅刻・欠席・途中退席は控えること。とくに初回は、授業の進め方や評価方法など詳しく説明するので必ず出席すること。また、授業最終日は、自己評価表の提出、授業の総まとめ等を行うため、欠席は評価に大きく関係するため避けること。受講学生には、授業中の「マナー(常識的なこと)」を守るようお願いする(私語、授業に関係のない行為、例えば、携帯電話・ゲーム、読書、他授業のレポート等、途中退室などは厳禁)。自身のメンタルヘルスも含めた健康管理に留意すること。

最初と最後の授業では各自の評価に関する確認があるため欠席しないこと。

授業の進行状況により前後し、内容によりゲストティーチャーを招聘することもある。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション:授業の内容や参考文献等の説明。ライフサイエンスの基本概念について学ぶ
- 【第2回】 バイオエシックスの誕生と展開について学ぶ
- 【第3回】 インフォームド・コンセントについて学ぶ
- 【第4回】 インフォームド・コンセントの諸問題について学ぶ
- 【第5回】 人工妊娠中絶と出生前診断について学ぶ
- 【第6回】 出生前診断と人工妊娠中絶の問題について学ぶ
- 【第7回】 生殖技術の歴史と背景について学ぶ
- 【第8回】 生殖技術をめぐる倫理的問題について学ぶ
- 【第9回】 脳死と臓器移植について学ぶ
- 【第10回】 臓器移植の現実的諸問題について学ぶ
- 【第11回】 安楽死と治療停止について学ぶ
- 【第12回】 安楽死をめぐる外国の動向と問題点について学ぶ
- 【第13回】 バイオエシックスに関する演習① 先行研究のまとめ
- 【第14回】 バイオエシックスに関する演習② 発表資料のまとめ
- 【第15回】 バイオエシックスに関する演習③ 授業のまとめと復習